



元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年10月17日 第1089号「週刊五十嵐レポート」

戦略なき経営は、ブラック！？

ある税理士の話では、企業の申告をしてわかったことは、3割が黒字決算、7割が赤字決算だったこと。コロナの影響で黒字決算が増えたのは学習塾。子供が学校に行けなかった分、親が学習塾に通わせた。また異常気象により好決算になったのは、車関連、特にタイヤ販売は良かったと。

黒字企業3割、赤字企業7割は日本全国でも同じ。厳しい経済環境下の中、企業は経営改善に取り組み、業績向上に努力をしている。経営不振の企業の中に、「戦略なき経営」を行っている企業が多い。戦略なき経営は無駄が多いとも言われている。

デイサービス(通所介護)を経営している会社の話。なぜか赤字を続けている。経営を学んだマネージャーが中に入ってみると、スタッフは一生懸命仕事をしているが、経営方針がなく、更に戦略がないことに気づいた。各自が良かれと思ったことをやっている。無駄が多すぎる。経費が膨らんでいる。

遠方まで送迎している。スタッフの残業が多くなる。役所に提出する書類作成をサービス後に行っている。各人の作業速度に差がある。残業が膨らむ。顧客の数が変動してもスタッフはMAXの人数を配置している。

営業地域を狭め、送迎は片道15分以内と決めた。顧客の人数に合わせて配置を決め、事務作業を得意な人に専任になってもらい、人数を増やさず現体制でデイサービスを対応させた。軽食、飲食、備品代を新たに徴収するようにした。粗利益が増え、経費を抑えることができ、黒字に転化できるようになってきた。

経営トップが経営方針を打ち出す。これを解るように書面化する。仕事の仕組みを作る。従業員を教育していく。これらを一貫性を持って実行し続けていくと、業績は自ずと良くなっていくことの実例。

マネージャーはいう、「本当に戦略なき経営は無駄が多いことを知った。このままだったらスタッフは一生懸命仕事をして、疲弊するだけで、会社は赤字のまま。もう少しでブラック(企業)になるところだった」。

ちよつと
届ける出来事

10月14日付日経新聞、「円、147円台後半32年ぶり」という記事。円相場は13日、1990年8月以来、約32年ぶりの円安・ドル高水準となる1ドル=147円後半に下落し、バブル経済崩壊後の最安値圏に突入。

新興国のように通貨防衛の判断を迫られる姿は日本経済の構造的な弱さを象徴する、と書かれている。

IMF調べ(円ドル)によると、1980年226.74、1985年238.53、1990年144.79、1995年94.05、2000年107.77、2005年110.22、2009年93.57、2010年87.78、2011年79.81、2012年79.79円、2013年97.60、2015年121.04、2020年106.79、2021年109.79。

1990年から30年余りで、100円を切ったのは、1995年と2009年~2013年(5年)の2度。それ以外は100円~140円台の中で推移している。今回150円に突入すると100円を切ったのと同じような衝撃になるかもしれない。

いずれにせよ、100円を切れば、日本経済の危機と叫ばれるし、140台になれば、日本経済の危機となる。為替に関しては我々が関与できない。

変化する環境下で耐えられる経営力をつけていくしかない。



一口メモ
知識

能(よ)く久しく

日月(にちげつ)は天を得て能(よ)く久しく照らし、四時(しいじ)は変化して能く久しく成し、聖人はその道に久しくして天下化成(かせい)す。

日月は止むことなく朝昼晩と巡り、
四季(四時)も休むことなく春夏秋冬が巡り、
万物を育成する。そこには一定の法則があり、
変と不変を孕(はら)んでいる。

刻々と変化して極まりがない。

その極まりがない変化こそが、不変の道、不変の「恒」である。

人もこれに倣(なら)い、自分の道を変えることなく、変化に応じて成長していくことだ。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

